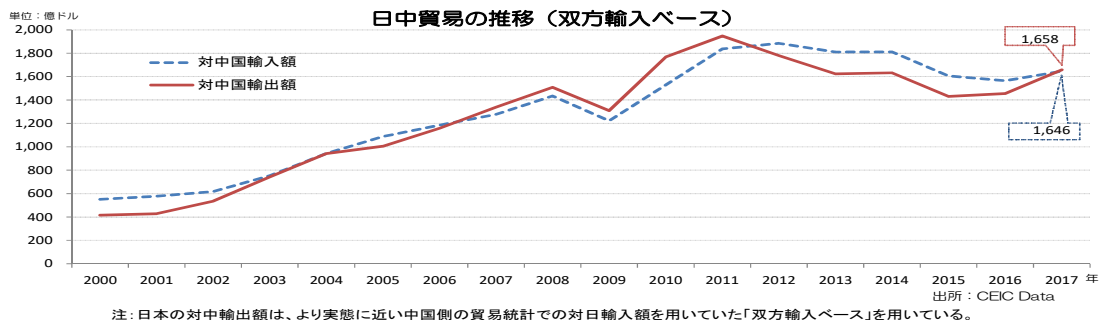


変化しつつある日中の貿易構造

◆2017年、日本からの輸出が中国からの輸入を6年ぶりに上回る

17年の日中間の貿易額を双方輸入ベースで見ると、総額で3年ぶりに増加に転じた。日本から中国への輸出が1,658億ドル、輸入は1,646億ドルと日本の輸出超過となった。輸出が輸入を上回ったのは6年ぶりとなる。

電子部品を実装するための機械や産業ロボット、高級乗用車などの輸出が好調に推移し、輸出全体で前年比13.7%増となる一方、輸入はスマートフォン（同3.9%増）など第85類（HSコード）の電気機器及びその他部品で同4.6%増と伸びたが、衣料品などが東南アジアへの生産拠点の移転で減少傾向に有るため、輸入全体で同5%増にとどまったことが逆転につながった。



◆中国企業の成長で貿易構造が変化

グラフをみると08年のリーマンショックの影響で一旦落ち込み、その後回復していた日中間の貿易額も、12年以降は停滞傾向にある。ここでも日中関係の悪化が影響しているといえそうだ。

また第85類に注目すると、日本からは集積回路などの「部品」が主力で、中国からの輸出は「機器」が中心だ。日本からの輸出が422億ドルで、輸入が467億ドルとなっている。

数字だけをみると加工貿易の域を出ていないようにもみえるが、通信関係での華為、ZTE、OPPO、ドローンのDJIなどは、世界市場でトップレベルの企業として認知されている。これら企業の製品は自主開発製品によるもので、日本市場で目にする製品も増えている。製品のブランドにまで注目すると、単なる加工貿易の段階から貿易の中身は変化しつつあるようだ。

【森山博之】